

## 大阪天満宮駅(JR東西線)②

## 大阪天満宮から三十石船・八軒家浜へ

南森町駅(地下鉄堺筋線・谷町線) 天満橋(地下鉄谷町線) 京阪本線・中之島線)

「大阪あそ歩マップ集」  
その3 No.109

## JR大阪天満宮駅

## ①大阪天満宮

菅原道真を祀り、一般に学問の神様として知られています。大將軍社の地に村上天皇が建立しました。境内に登竜門があり、近くに上方落語の常打ち寄席・天満天神繁盛亭、川端康成の生誕地などがあります。



## ②天満組惣会所跡

江戸時代の大坂の町組織は、大川(淀川支流)以北の天満組と以南の北組、南組に分けられ、大坂三郷とよばれていました。それぞれに惣会所(集会所)があり、町には町会所があり、惣年寄、町年寄などの代表者に自治が認められていました。滝川公園に天満惣会所跡地の碑があります。



## ③天満興正寺跡

天正13年(1585)に真宗の寺院として造営されました。江戸時代には天満組の宗匠人別帳(戸籍)がここに納められていました。明治中期には関西法律学校(現・関西大学)の校舎に使われた

こともあります。戦火で焼失し、現在は旭区に移転しています。

## ④天満青物市場跡碑

江戸時代の青物市場が、ここ南天満公園一帯にありました。堂島米市場、鞆の雑喉場市場と並んで難波の三大市場と呼ばれました。明治・大正のころも大阪一の青物市場として栄えていましたが、昭和6年(1931)大阪中央卸売市場に吸収されました。

## ⑤天満の子守歌碑

天満の青物市場で働いていた子守娘たちが歌った子守歌です。「ねんねころいち 天満の市で大根そろえて 船に積む」といった歌詞で、当時の大坂の青物流通の様子がしのべられます。

## ⑥淀川三十石船舟唄碑

大川は淀川をさかのぼって京都まで続く重要な水路でした。船場に隣接する天神橋と天満橋の間の南岸は古くから船着き場でした。三十石船は米を三十石積める船ということです。全長約

17メートル、幅約2.5メートル、乗客定員28人~30人、船頭は4人~6人で、江戸時代、京都に上る主要な交通手段としてあらゆる階層の人々に利用されました。舟唄は船頭が歌っていたもので「ヤレサー いたら見てこい 大坂の城は 北は淀川 船が着く」といった歌詞が延々と続きます。

## ⑦天満橋

天神橋、難波橋とともに浪華三大橋のひとつとされてきました。江戸時代は幕府直轄の公儀橋で、現在地より一筋東に架かっていました。当初の木橋は明治18年(1885)の淀川の大洪水で流失し、その後、鉄橋が架けられました。

## ⑧八軒家浜

三十石船の発着する浜には、8軒の旅館があり、八軒家浜と呼ばれました。古代には堀江、また渡辺津と呼ばれ、古くから水運の拠点となった「水の都・大坂」を代表する場所です。

地下鉄・京阪天満橋駅

